2019 年度（令和元年度）

入間市生涯学習をすすめる市民の会

活動報告書

2020 年（令和２年）４月

入間市生涯学習をすすめる市民の会

https://irumanabito.net/

目　　次

はじめに 1
１．活動目標と事業内容 2
２．各部会・プロジェクトの活動内容とまとめ 3
　＜企画・講座部会＞ 3
　＜広報部会＞ 8
　＜生涯学習フェスティバルプロジェクト＞ 11
　＜視察研修プロジェクト＞ 14
３．収支決算と年間スケジュール 18
　収支決算 18
　年間スケジュール 19
市民の会発足２５周年に向けて 21
むすび 21

入間市生涯学習をすすめる市民の会：

　いるま生涯学習プラン２１（入間市生涯学習推進計画）の狙い：「だれもが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことを暮らしや地域に活かすことのできるまち」を目指して活動を進めています。市民の学習支援を目指して、「市民と行政がそれぞれの強みを持ち寄って両輪として活動する」という協働の意図のもとに1995年(平成7年)に設立した市民のボランティア活動組織です。

　生涯学習推進施策への提言・協力、市内の学び情報の発信、新たな学びの仕組みづくりの検討、まちの先生講座の企画・運営、生涯学習フェスティバル企画・運営など、活動は多岐にわたっています。

はじめに

入間市生涯学習をすすめる市民の会は、市民の生涯にわたる学習活動支援を目指して 1995 年(平成７年)に設立されました。第４次入間市生涯学習推進計画に謳われる、入間市のだれもが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことを暮らしや地域に活かすことのできるまちづくりを推進しています。2019 年度(平成３１／令和元年度)もまさに市民／行政の協働として９人の市民委員（加えて８人の協力委員）と事務局（教育委員会社会教育課）が、一体となって様々な生涯学習推進の活動を進めてきました。

本年度もいるま生涯学習フェスティバル(生フェス)の実行委員会の中核(委員長、副委員長、委員会の委員長）として、２５回を迎えた生フェスの企画、運営を支えました。会場が市民会館（中央公民館）に変わったことで、会場の各会議室のトビラに関連させてサブタイトル「さあ！トビラを開けよう」と企画提案しました。さらに、市民会館ホールの活用法、会場の装飾法など市民が楽しめる企画を提案し、さらに前日からの会場準備や終了後の片付けなど実行委員会として生フェス運営を支えました。

８年目を迎えた「まちの先生講座」は、３１講座（１０回までの拡張型５講座を含む)、コマ数９８、延べ受講者数６８５人とさらに広がりを見せ、多くの市民の学ぶ機会につながりました。今回コマ数を大幅に拡大できたのは、講師の運営協力(従来、市民の会が担当する講座スタッフの役割を講師が一部肩代わり)が増えてきた背景があります。また、学びの仕組みづくりの一環として、いるまなびと登録を進めてきました。

広報関連では、地域の学習情報冊子「いるま学びの場」の発行、「いるまなびと」Web サイトの運営、市内１０か所の「生涯学習けいじばん」の運営／保守、を行いました。さらに、私たちの活動紹介「生涯楽習通信」の発行を行いました。また、他市の視察研修では、小田原市の「キャンパスおだわら」を訪問して、人材バンクのねらい、講座の状況などの話を伺い、小田原が講師の自立を主に目指す点が入間と異なる点を認識しました。加えて、市民の会発足２５周年の記念事業企画を検討しました。

本報告は、2020 年度(令和２年度)の各部会／プロジェクトの活動目標と事業内容をまとめたものです。

「いるまなびと」とは

「いるまなびと」は、「いるま」「まなび」「ひと」「ナビ」を合わせた造語です。個人・団体で活動している市民はもとより、生涯学習活動をしている家族や友人等を支えている市民も「いるまなびと」であると考えています。

現在、市民の会では、地域で仲間と学ぶ市民＝「いるまなびと」として位置づけ、「いるまなびと」を増やすために「まちの先生リスト」登録や「いるまなびと」サイトの構築等、様々な展開をしています。

１．活動目標と事業内容

＜企画・講座部会＞
＊活動目標
『生涯学習に関する共通的な仕組みづくり』

＊事業内容
◎８年目を迎える「まちの先生講座」の継続運営
◎庁内の関連部署及び公民館、地域の団体／企業等との連携推進
◎生涯学習を推進する「学びのしくみづくり」の企画・具体化
（いるまなびとサイトの運営、いるまなびと登録の促進など）

＜広報部会＞
＊活動目標
『生涯学習に関する支援および情報発信』

＊事業内容
◎「いるま学びの場」発行　◎エフエム茶笛との連携による効果的な広報活動
◎「生涯学習けいじばん」による生涯学習情報の発信及び利用促進
◎ホームページ及びメールマガジンによる広報活動
◎情報紙「生涯楽習通信」の発行　年１回　　◎内部研修会の実施

＜生涯学習フェスティバルプロジェクト＞
＊活動目標
『市民と行政との協働によるフェスティバル開催を通じ、地域団体の学習成果の発表の場、および各種学習情報の提供』

＊事業内容
◎主催団体として時代に即し市民ニーズに見合うフェスティバル全般について方針立案、提案、実行
◎市民の会の活動アピール（活動展示やまちの先生紹介など）

＜視察研修プロジェクト＞
＊活動目標
『生涯学習に関する新しい動きを把握』

＊事業内容
◎生涯学習先進地の視察調査

２．各部会・プロジェクトの活動内容とまとめ

＜企画・講座部会＞

部 会 長：関谷
部会委員：佐藤、望月、土屋、山増、渡部

＊活動目標
『生涯学習に関する共通的な仕組みづくり』

＊事業内容
◎８年目を迎える「まちの先生講座」の継続・拡張講座運営
◎庁内の関連部署及び公民館、地域の団体／企業等との連携推進
◎生涯学習を推進する「学びのしくみづくり」の企画・具体化
（いるまなびとサイトの運営、いるまなびと登録の促進など）

＊活動実績
◎市民講座「まちの先生講座」の開講（８年目の試行）
重点項目：
- ✓ 運営協力者の活用
- ✓ 拡張講座の取り組み（１０月半ば～２月末）
- ✓ まちの先生をスタッフに活用
- ✓ 公民館活用の重点化
- ✓ いるまなびとのしくみの具現化（サイトの構築・いるまなびと登録推進）

【実施概要】
参 加 者 数：６８５人（延べ）　※昨年度：３８５人（延べ）
実施講座数：３１講座（講師３１人）
※募集は３３講座、うち２講座が定員未満で開講に至らず
実施コマ数：総コマ数９８コマ（昨年６４コマ）
拡張型
１０コマ（４講座、昨年０）
６コマ（１講座、昨年０）
従来型
３コマ（１０講座、昨年９）
２コマ（６講座、昨年９）
１コマ（１０講座、昨年１２）
実 施 期 間 ：１０月８日～２月２１日（平日１０時～１７時の３区分の時間帯、例外で土、日実施）

会　　場：市民活動センター（イルミン）、入間市博物館（青丘庵）、公民館１２か所（黒須公民館、高倉公民館、東町公民館、久保稲荷公民館、東金子公民館、金子公民館、宮寺公民館、二本木公民館、藤沢公民館、東藤沢公民館、藤の台公民館、西武公民館）（昨年度実施公民館：１２か所）武蔵豊岡教会、アドバンスカラーセラピー豊岡本部

スタッフ：延べ３１人（昨年度６９人）市民の会委員、市民の会協力委員、まちの先生、事務局

【参加者の声・まちの先生の声】

◇参加者の声（抜粋）

・茶事の流れをていねいに教えていただき良い勉強になりました。
・参加されている方々がとても熱心でした。
・正直なところ、むずかしかったが、もう一度資料を読み直してみたい。
・先生のやさしさに好感。もっと沢山の人に参加してほしい。
・基礎とポイントを短い間に教えて頂き、アレンジに挑戦してみたい。
・はじめての経験。楽しい時間ありがとうございました。
・今回は大変興味深かった。新鮮で効果的な英単語記憶法と実感した。
・参加者が同年代の方で安心して一緒に勉強できました。
・人生哲学（語学勉強の方法）をおしえていただいた！
・様々な学識者が居られ活動されている事を知る。
・講師がとても克明に年表、資料を整えて講義してくださった。
・城とその時代の人々の大変さが伝わって城を見る時が楽しみになった。

◇まちの先生の声（抜粋）

・アンケートを書いていただく時間の設定も必要でした。
・講座の内容が盛りだくさんで時間が足りなくなってしまった。
・皆さんと楽しく過ごすことができてとても良かった。
・もっと多くの市民が講座に参加できるようになると良い、もう少し時間（３０分）があると良い。
・当日のスタッフも兼任したが、市民の会の挨拶は資料配布の形にしては。スタッフ兼任時は公民館職員に記録写真をお願いする必要あり。
・受講生のレベルに合わせて資料集めが必要なので、いつも頭を悩ます。
・突然のキャンセルもあるので、追加で当日の参加も認めて欲しい。
・全３回講座で、部分的に参加する方の受講料は決まっていないのか。
・パソコンの設定、機材の準備をスタッフさんに協力してもらって助かりました。
・講座期間は年１回ではなく、もう少しあると良いと思います。
・受講生の皆さんを見ていると、講師の自分も更に指導力を磨く必要あり。
・受講生の表情が、講座最初と最後でガラッと変わったのが印象的。

【実施講座】

分類	講座企画一覧　（＊定員に達せず中止　◎拡張型講座）	コマ数
文化	茶道の世界　シリーズ⑧口切りの茶事講座	１
	２０世紀名画（シネマ）シーンと音楽の回想	３
	川柳は日本のうた！五・七・五で人生を詠んでみよう	３
工作	気軽に作れるとび出す絵カード	２
	大人の紙ヒコーキクラブとスチレンペーパープレーン	１
美術	楽しい絵手紙（誰にでもかけます）	３
	鉛筆デッサンに挑戦！正確に描くコツを教えます	３
	ファンタスティック・トナカイをつくろう！	１
地域	いるまの近代化、現代への証を訪ねて	２
	＊ジョンソン基地時代を考える　あのころ入間にはアメリカがあった	３
教養	コケって植物！！（コケの正体についてお話しします）	１
	人生１００年時代を生きるための資産形成のはじめ方	３
	城の見方・歩き方②関東地方の城（土塁の本場）	３
	地震や火山の疑問	１
	人生１００年時代のライフプラン	１
健康	インドに学ぶ、心と体に優しい玄米菜食セルフケア	１
	もっと知ってほしい乳がんのこと 他人事と思わないで！	１
	椅子ヨガで安全安心に体の喜ぶヨガを楽しみましょう	１
	＊運動による健康管理を　健康整体々操教室	３
生活	年末まで待てない！今から始めるお片付け～初心者編～	１
	ハーバリウムレッスン	１
	カラーセラピー＆コーディネート☆味方になる色は？	１
音楽	楽しいギター入門―ビートルズからクラシックまで―	２
	トーンチャイムで音楽を奏でましょう♫	３
	江戸の粋 三味の音に乗せて、江戸情緒を愉しみましょう	１
技術	ボランティアに役立つ腹話術（靴下パペットで）	１
舞踊	浴衣の着方を覚えて舞妓の座敷舞を習いましょう	２
	ハワイアンフラ（初級編）	３
技術	◎楽しく学ぼうＥｘｃｅｌ入門	６
	◎話すためのやり直し英文法(英検準２級程度～)	１０
語学	◎楽しい会話で、英語力アップ	１０
	◎いまからでもコーラス～口の健康・ハモる喜び～	１０
健康	◎未経験者ＯＫ！心と体をやさしくほぐすシンプルヨガ	１０

【まちの先生講座の様子】

コケって植物！！（コケの正体についてお話しします）

いまからでもコーラス
～口の健康・ハモる喜び～

大人の紙ヒコーキクラブと
スチレンペーパープレーン

◎庁内の関連部署及び公民館等、地域の団体／企業等との連携推進

（１）入間市民大学（自治文化課）で「まちの先生講座」及び「いるまなびと」登録の案内と宣伝

（２）公民館でのまちの先生講座開催数１２か所

（３）公民館や地域の団体／企業等でのまちの先生講師依頼数１１回

（４）公民館職員と年度初めに情報交換会実施（@金子公民館）

◎生涯学習を推進する「学びのしくみづくり」の具体化

（１）学びの体系化についての検討（仕組みの理想型と具現化へのステップを描く）

（２）いるまなびとサイトの構築・運営・いるまなびと登録促進

※登録者総数４６５人（昨年より８４人増）＜内、メール登録者１７８人（昨年より３６人増）、郵送登録者２８７人（昨年より４８人増）＞

目的：部署を超えた情報統合・市民目線の情報発信・学ぶ市民のデータ化

対策：登録呼びかけチラシ作成、市民大学等でのチラシ配布、缶バッチ作成・配布・エコバッグ配布

（３）いるまなびとのＷＡ！発行（秋号）、メルマガの発信（月１回）

目的：紙媒体・電子媒体双方での情報発信

（４）まちの先生登録推進

（５）生涯学習フェスティバルにおけるまちの先生講座の実施（５件）

まちの先生ＰＲの場の設置

まちの先生の活用、活性化、制度の周知を目的

【来年度の課題】

○「まちの先生講座」１０年目（2021 年度）を目途に恒常化の方向へ

・多数の市民を受け入れられる継続的な講座の仕組みづくり

（講座開催場所の工夫、期間拡張型の継続試行など）

・まちの先生運営参画の一層の推進、スタッフ公募の検討

○公民館との連携：引き続き情報交換会等開催、理解と協力を得る努力

○いるまなびとの仕組みの発展・周知（庁内事業との連携・促進）

＊総括

市民を地域に生かすしくみ、「まちの先生講座」（８年目）は、着実に広がりを見せ、多くの市民の学ぶ機会につながりました。講座の運営にあたっては公民館での開催を増やし、１２館を利用させていただき、８年間の信頼関係に基づきスムーズな講座運営ができました。

学びたい市民に情報を届けるしくみ「いるまなびと」に登録した市民には、毎月のメルマガといるまなびとのＷＡ！（秋号）にて情報を届けることができました。

市民の会のサイト「いるまなびと」では「各種学び情報」「まちの先生」「フェスティバル」「市民の会」「いるまなびと登録」のそれぞれについて情報を発信しました。また、サイトを訪れて「いるまなびと」に登録する市民もいるなど、本サイトは、市民への生涯学習情報にふれる機会の提供に貢献しています。

＜広報部会＞

部 会 長：佐藤
部会委員：指田・長崎・渡部

＊活動目標

（１）「生涯学習活動に関する支援」　事業内容の番号（１）（３）（６）
（２）「生涯学習に関する情報発信」　事業内容の番号（４）（５）
（３）「市民の会の活動 PR」　事業内容の番号（２）（４）

＊事業内容

（１）「いるま学びの場」発行
（２）エフエム茶笛との連携による効果的な広報活動
（３）「生涯学習けいじばん」による生涯学習情報の発信及び利用促進
（４）ホームページ及びメールマガジンによる広報活動
（５）情報誌「生涯楽習通信」の発行（年１回）
（６）内部研修会の実施

＊活動実積

◎「いるま学びの場」発行

（１）「いるま学びの場」は市内のサークル・教室を掲載し、市民の生涯学習を始めるサポートをしている冊子です。文化系活動・社会系活動・体育系活動などのサークル、カルチャースクールの情報が長年にわたり蓄積されており、平成３０年度版をもとに最新の情報としました。市役所、公民館等で配布していますので多くの方に役立てていただきたいと考えております。令和元年８月に発行しました。

◎エフエム茶笛との連携による効果的な広報活動

（２）昨年度に引き続き、エフエム茶笛との連携による広報活動は、今年度も生涯学習フェスティバル開催前の１１月４日（月）～１１月３０日(土)１２時台後半にコマーシャルを行いました。この時間帯は市庁舎にも放送が流れており、多くの人に聞いていただけました。また、生涯学習フェスティバルの関係者による８分間の生放送を１１月５日(火)生涯学習フェスティバル実行委員会企画について、１２日（火）まちの先生講座について、１９日（火）世代向けのおすすめ企画について、２６日（火）フェスティバル全体と市民と行政との協働についての内容で４回実施しました。広く周知してゆくために、毎年やり続けることが必要と考えます。

◎「生涯学習けいじばん」による生涯学習情報の発信と利用促進およびメンテナンス

（３）「生涯学習けいじばん」が設置されて８年が経過しました。掲示の利用状況は表とグラフのとおりです。

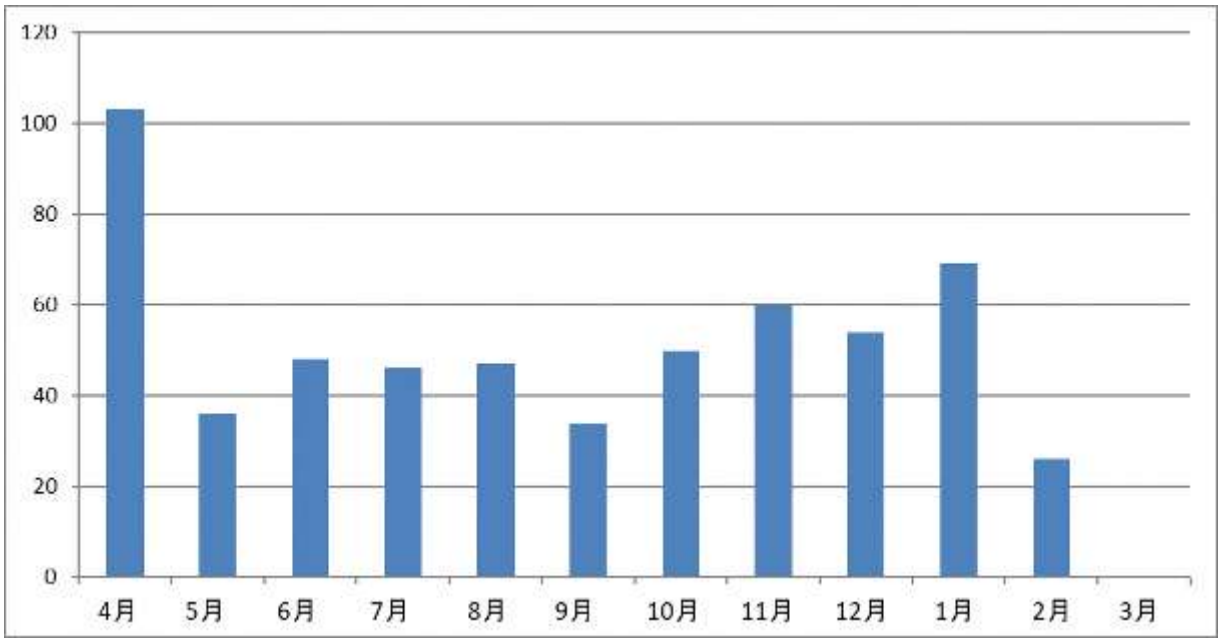
設置され８年が経過し、部分的に劣化が進んでいる個所が確認できましたので、新しきを知る公園は柱交換と屋根部分新規作成、児童センターとさくら公園は屋根部分の新規作成を行いました。また、さくら公園のけいじばんが強風のため１月と３月に扉部分が外れましたがその対応を早急に取りました。この場所は近くに大きなビルがあるため他の場所より強風になっていることが考えられます。

令和元年度　　生涯学習けいじばん利用率

※掲示板１箇所につきポスター最大６枚
市民体育館の工事の為１２～３月は
掲示無し　　（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
富士見公園	8	4	5	5	4	3	5	6	6	7	2	0	55
向陽台広場	14	4	4	5	5	3	5	6	6	8	3	0	63
新しきを知る公園	11	4	4	5	5	4	5	6	6	7	3	0	60
アミーゴ	10	3	6	5	5	4	5	6	6	8	3	0	61
さくら公園	9	3	4	4	4	3	5	6	6	8	2	0	54
金子駅前	8	4	5	4	5	3	5	5	6	8	5	0	58
博物館	11	3	5	4	5	3	5	6	6	8	3	0	59
イルミン	11	4	5	4	4	4	5	7	6	7	3	0	60
市民体育館	10	4	5	5	5	4	5	6	0	0	0	0	44
児童センター	11	3	5	5	5	3	5	6	6	8	2	0	59
合　計	103	36	48	46	47	34	50	60	54	69	26	0	573

[月で見る利用件数]



新しきを知る公園の腐食した柱部分と補修後のけいじばん

（４）ホームページ及びメールマガジンによる広報活動

ホームページ（https://irumanabito.net/）は継続的に随時更新し、多くの情報を告知することができました。生涯学習を進める市民の会の記録としても大変重要なものとなっています。

また、メールマガジン「いるまなびとのＷＡ！」も毎月１日に発行し、１１月には生涯学習フェスティバルの増刊号を発行しました。令和２年３月現在メールマガジンは１８２人の方に配信しております。

（５）情報誌「生涯楽習通信」の発行（年１回）

「生涯楽習通信」Ｖｏｌ．２２を２月に発行しました。「生涯学習フェスティバル」や「まちの先生」の状況を紹介しており、生涯学習を進める市民の会の記録にもなっております。

（６）内部研修会の実施

今年度は残念ながら内部研修会は開催しませんでした。

＊総　括

事業内容の（１）から（５）までは概ね計画どおりでした。（６）の内部研修については次年度に実施をしたいと考えております。

「いるま学びの場」については年度ごとに更新しておりますが、「まちの先生」の仕組みとも合わせて利用する人が使いやすく便利なものになるよう検討をする必要があります。

けいじばんについては、修理中に市民の方から「よく見ているよ」という言葉を複数の方から頂き定着している様子がわかりました。

来年度も計画的に修繕を行っていきます。

＜生涯学習フェスティバルプロジェクト＞

ＰＪ委員：　幸森・佐藤・指田・関谷・長崎・望月・山増・渡部

＊活動目標

『生涯学習フェスティバルの開催を通じ市民と行政の協働によるまちづくりを目指す』

＊事業内容（詳しくは開催報告書を参照）

◎「第２５回いるま生涯学習フェスティバル」の方針の企画立案、提案、実施

テーマ：『いるまなびと大作戦Ⅳ　さあ！トビラを開けよう』

日時：2019 年(令和元年)１２月１日（日）９時４５分～１５時１５分

会場：入間市市民会館

主催：入間市、入間市教育委員会

入間市生涯学習をすすめる市民の会、（公財）入間市振興公社

主管：第２５回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

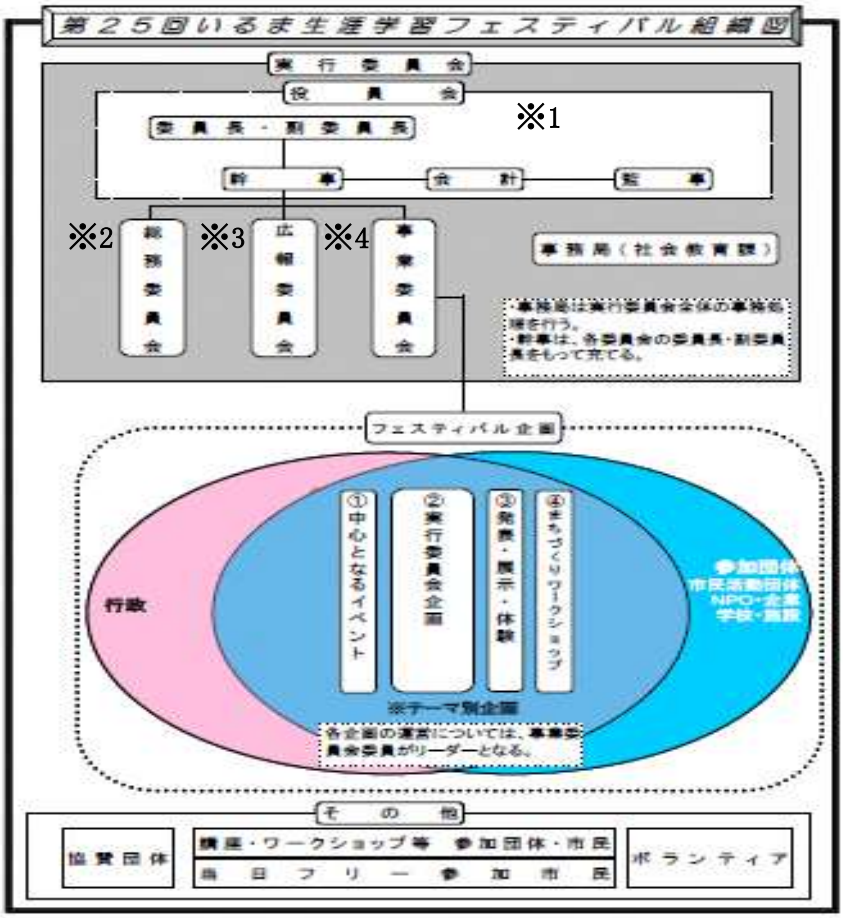
＊活動実績

◎実行委員会会議　７回、　参加団体企画会議　２回、

その他、総務委員会、広報委員会、事業委員会を開催

当日の来場者数：3,770 人

＊実行委員会組織図



（以下、※１～４：実行委員会組織図を参照）

※１　役員会　（敬称略）
委員長：山増　　副委員長：長崎・津久井
総務委員：佐藤・諸井　／ 広報委員：関谷・山本　／　事業委員会：渡部・倉片
会計：長崎・望月　／ 監事：坂本・大野

第１回実行委員会開催前に役員会で会場が産業文化センターから市民会館になったため、会場の使い方や事業の方向性を話し合った。

※２　総務委員会
主に当日の会場準備や会場の運営に関することをし、事前には会場を楽しく回ってもらう為、体験ラリーを６か所つくり催し物を体験しながらシールを集め、豪華景品をプレゼントしました。そして会場内装飾でバルーンアートの方にフェスティバルキャラクターいるくん、まなちゃん、びぃとさんをバルーンで作ってもらい各階の目印にしました。更に各部屋の前にトビラの名前をわかりやすく表示しました。また、フェスティバルではごみの減量化も長年続けており、エコに関することも周知しました。

※３　広報委員会
フェスティバルを広報するために広報計画を立てポスター、チラシを作成し、市報１１/１号や生涯学習情報誌かがやく、入間ケーブルテレビ、エフエム茶笛でＰＲしました。万燈まつりでは風車のワークショップブースでＰＲしました。１１月中旬には横断幕を市内９か所設置するため、会場変更の修正し、設置しました。また、１１月下旬には市民会館周辺にのぼりを立てＰＲしました。

※４　事業委員会
今回の会場である市民会館（中央公民館）は会議室が多く、そのドア（トビラ）をキーワードとするアイデアがでました。会議室のトビラ開けることを、学びの好奇心のトビラを開けてみることに掛けたコンセプトテーマを実行委員会に提案し、その結果「さぁ！トビラを開けよう・・・」を決定しました。
それに伴い参加団体を各部屋にジャンル別で分けることにしました。また、その他の企画は、市民会館と協力してプチバックステージツアー；市内在住の声楽家の大城みほさんのコンサート；市民団体とのコラボ企画びりとブッチィーのおもしろクラウンショー；2020 年パラリンピックの正式種目であるボッチャ体験など。
市民の会では、まちの先生講座の「出張！まちの先生ミニ講座」を開催しました。加えて、ここ数年続けている近隣の所沢市・狭山市の生涯学習推進団体が連携して三市の生涯学習活動を紹介しました。

＊総括

今回のテーマ『いるまなびと大作戦Ⅳ　さあ！トビラを開けよう』は参加団体の皆さんもテーマに沿って各部屋を工夫し来場者の方にも好評でした。また、初めて使う会場なので、会場案内所を２ヵ所（１階入口、２階通路）つくり、実行委員会でシフトを組み、案内心得も学んで対応しました。当日は天候にも恵まれ、飲食関係の団体も昼時は賑わっていました。生涯学習という言葉を市民が身近に感じられるよう考案した「いるまなびと」というキーワードに今後も市民の生涯学習を支えるためフェスティバルを開催していきます。

ただ、ここ数年、市民活動団体からの実行委員参加が減少傾向にあります。高齢の委員に配慮して、例えば実行委員会の開始時間を早くするなどの工夫が今後は必要かもしれません。

＜視察研修プロジェクト＞

ＰＪリーダー：幸森

Ｐ Ｊ 委 員：長崎

視 察 日 時：2019 年(令和元年) ８月２８日（水）8:00～17:30

視　察　地：神奈川県小田原市（小田原市生涯学習センターけやき）

内　　容：「キャンパスおだわら」の視察

参　加　者：

（会　　員）渡部直也、山増智子、佐藤享、関谷敦子、長崎彩子、望月雅枝、指田博行、幸森康夫

（協力　委員）小暮欽作、土屋修

（社会教育課）近藤有紀、齋藤理子　（全１２人）

目　　的：当会が推し進める「まちの先生」講座と同様な事業「キャンパスおだわら」を展開している小田原市の運営方法等を探り、今後のまちの先生のヒントを見つけることを目的とした。

内　　容：13:00～14:30、小田原市生涯学習センターけやき（２階第一会議室）

出席者：奥村理事長、葉野副理事長、福島副理事長、
鈴木(プラネット神奈川担当)、伊東(子供おもしろ学校企画運営担当)、
野地（人材バンク担当）

（１）参加者双方の自己紹介等の後、奥村理事長より以下についてパワーポイントを用いて説明があった。

1）NPO 法人小田原市生涯学習推進の会の活動紹介

・目的：①市民の手による市民のための生涯学習の推進。②小田原市と連携・協働し生涯学習を進めていく『ボランティア』の団体。

・2005 年(平成１７年) １２月に会を設立。2010 年(平成２２年) ９月に NPO 法人化。会員現在３６人。(最多時は６０人だった)

・愛称：小田原けやきの会

・事務所：小田原市生涯学習センターけやき内

・小田原市民が立ち上げた「キャンパスおだわら」の事務局を担う。運営費用は市より受託。(約８００万円)

・活動内容：「キャンパスおだわら」の事業を運営

2）キャンパスおだわらについて

・理念：まちじゅうキャンパス～みんなで創るキャンパスシティおだわら～

・目的：①だれもが気楽に学習できる機会の提供、②郷土について知り、学ぶ機会の大学、③目的意識を持った知識・技術等の習得、④まちづくりに意欲をもって取組む人材の育成、⑤学んだ学習成果をまちづくりにいかす

・事業内容：①「キャンパスおだわら」の学習講座の認定、②学習講座の実施状況の情報集約、③地域資源を生かした講座企画と実施、④学習情報の発信（時間自分手帳、情報誌、ＨＰ、ＰＬＡＮＥＴかながわ、ＳＮ

Ｓ等)、⑤人材バンクの管理・運営（教えたい人を学びたい人にコーディネート）に関する事業、等の事業を行っている。

・学習講座の種類：市民企画講座（キャンパス講師講座、公募型市民企画講座、一般市民講座)、企業企画講座、教育機関等企画講座、行政企画講座等

・学習講座の種類：市民企画講座（キャンパス講師講座、公募型市民企画講座、一般市民講座)、企業企画講座、教育機関等企画講座、行政企画講座等

3）キャンパスおだわら「人材バンク」について

・人材バンクとは：まちじゅうキャンパスを目指し、市民の学ぶ喜び、教える喜びが実感できるとともに、人材バンクに登録した者が活躍でき自らも成長できるような制度

・人材バンクの目標：教えたい人と学びたい人、これらをつなげる人がやりがいを持って関わることで、市民主体の生涯学習を実現する。

・人材バンクの役割：名簿や活動状況等の管理、講師のスキルアップのためのセミナー開催等による人材育成、講師と利用者の仲介又は調整等

・活動実績：①市民等の依頼に合わせて講師等を紹介・派遣（講師４０人、1117 講座、21771 人受講)、②人材バンク事務局が企画する講座（講師６５人、７９講座、1136 人受講)、③各種団体等が人材バンクを活用して企画する講座（講師３人、９講座、３４７人受講)、(2018 年度実績)

・講師の数：2019 年で１２５人、次年度は１５０人を目標にしている。

（２）渡部会長より、入間市生涯学習をすすめる市民の会の活動について概略説明があった。

（３）質疑応答を行う。主な内容は以下のとおり。

・募集について：随時募集、個人・団体・住所・国籍・年齢等の制限なし、推薦人１人必要、登録料 1,000 円/年、３年毎に再申請、登録後は「キャンパス講師」と呼称、提出先は人材バンク。

・講師料について：登録時に有償、無償を選択。講座の講師料は 1,000 円/１講座。

・受講料について：参加費が５００～６００円/回、その他材料代等は実費。

・キャンパス講師講座：６～１０月は入門・お試し講座。１０～１２月、１～３月は本格講座（複数回連続講座等)。

・講座申込方法：電話、メール（ＨＰに受講ホーム有）等で人材バンク事務局へ申込。

感　　想：視察を受けての各自感想

・立ち上げのエネルギーは感じた。現在の状況についての詳細がもう少し知りたかった。
・もう少し衝撃が欲しかった。
・資金の収支が気になった。毎年登録料を支払うということだったが事務が煩雑なのではないかと危惧した。
・講座を受けた方たちがサークル化しているのかどうかを聞き漏らした。
・講座に関するいろんな業務を講師が担っていた。入間市のまちの先生に対して市民の会は世話をし過ぎているように感じた。
・先生に対する謝金 1,000 円／講座には、驚きました。
・キャンパス小田原開催にかかる市から NPO 小田原市生涯学習推進員の会への委託料は８００万円ということだったが、かなり高額ではないかと思った。
・NPO と市民の会を比較すると市民の会の方が楽なような気がした。責任の度合いも違うし、自分には入間が合っている気がした。
・NPO への委託料が８００万円ということだが、その明細や投資効果が知りたかった。
・自分時間手帳に住所が記載されていて衝撃的であったが、講座を自宅で開講したりしているので問題ないということであった。
・講師のランクアップ制度があることにびっくり。
・各講師が自立してやるようになっているということにびっくり。これを思うと、入間市の制度は余りにも世話し過ぎの感がした。
・入間市では商売としてやっているような先生もいるということだが、基本はボランティアでやるべきではないかと思った。
・入間市は生徒が１人でも開催されている実態は甚だ疑問であると感じた。
・今回の小田原への視察結果をまちの先生にも伝えるべきであると思った。
・いるまなびとの情報発信は進んでいると思っていたが、小田原はその先を行っていた。FB、YouTube なんかはまだできていない。我々ももっと情報発信すべきと感じた。
・講師の男女比率は男性が多いようであった。
・会員が現在３６人ということだが、市民の会の会員が少なすぎるのではないかと感じた。
・昨年上田市の視察でも、運営方法等に衝撃を受けたように、今年も同様な衝撃を受けた。

・小田原は向いている方向が多方面に亘っているように感じた。入間ではまちの先生をお客様扱いしているように思えた。

・受講料は全てNPOが集め、講師には謝金の1,000円しか支払わないことに本当にビックリ。それでも講師は満足している。この仕組みを入間でも取り入れるべきだと思った。

といった内容の感想が寄せられた。

＊総　括

今年の視察地は、神奈川県小田原市であった。人口約１９万人（入間市約１５万人）、面積約１１４㎢（入間市約４５㎢）の都市であり、戦国時代には後北条氏の城下町として発展し、江戸時代には東海道屈指の宿場町として栄えた。明治時代には財政界人や文化人たちの別荘地又は居住地となった。バブル期には東京のベッドタウン化し一時は人口２０万人を超えたが、バブル崩壊後は都心回帰により人口減少が続いている。

今年の視察地選定にあたっては、ある会員から持ち込まれた「キャンパスおだわら」に関する情報からであった。昨年度視察した上田市の「上田自由塾」は、「まちの先生」の仕組みの数歩先を行っていたが、小田原は直接参考になりやすい仕組みのように考えられたことから視察先として選定された。

小田原では、NPOが市から委託を受けて「キャンパスおだわら」を運営しており、講師は1講座1,000円という手数料で、原則ボランティアにより講座が組み立てられていた。現在、まちの先生は講師料を徴収し講座を行うというスタンスになっており、今後小田原市のような原則ボランティアという制度の導入に向かうには、早期にまちの先生との協議を進める必要があるのではないかと思った。一方、現在のような講師料を徴収する方向で制度化するのであれば、上田自由塾のように、受講者から徴収した料金で運営費も賄うような制度を考えるべきではないかと思う。

今後の「まちの先生」講座は、小田原市、上田市の何れの方向を目指すべきか判断する時期に来ているのではないかと強く感じた。

視察後、小田原城銅門（あかがねもん）前で記念写真。（撮影：齋藤理子）

３．収支決算と年間スケジュール

収支決算

2019年度（令和元年度） 入間市生涯学習をすすめる市民の会
収　支　決　算　書

（収入）　（単位：円）

科目	予算額	決算額	説明
補助金	760,000	760,000	市補助金
繰越金	0	0	
諸収入	0	2	預金利子
合計	760,000	760,002	

（支出）　（単位：円）

科目		予算額	決算額	説明
総務費		115,000	145,292	
	事務費	105,000	131,972	備品、ロッカー借上げ代等
	印刷製本費	10,000	13,320	事業報告書用色上質紙
事業費		640,000	614,386	
	企画講座	130,000	135,563	まちの先生講座
	広報	250,000	236,825	通信・CM・けいじばん等
	フェスティバル	130,000	139,798	フェスティバル事業費
	視察研修	130,000	102,200	小田原市視察研修
	その他	0	0	
予備費		5,000	0	
合計		760,000	759,678	

収入（円）		支出（円）		残金（円）
760,002	－	759,678	＝	324

上記のとおり、報告いたします。

令和2年3月31日

入間市生涯学習をすすめる市民の会　　会長　渡部 直也

会計　長崎 彩子

会計　望月 雅枝

【監査報告】

令和元年度入間市生涯学習をすすめる市民の会収支決算について、さる 4月 1日に関係諸帳簿及び関係書類を審査した結果、いずれも適正であることを認め、報告いたします。

監事　幸森 康夫

監事　指田 博行

年間スケジュール

2019年度（令和元年度）生涯学習をすすめる市民の会スケジュール（毎月更新）

	通年事業	4	5	6	7	8
市民の会　全体 ※幹事会はメーリングで意見調整 （予算　105,000　円）	定例会 開催場所	定例会(4/16) 中央公民館	定例会(5/21) 市民活動センター	定例会(6/18) 市民活動センター	定例会(7/16) 市民活動センター	お休み
	予算					
	全体事業	ロッカー代 2000円		セキュリティソフト 2031円		
	予算	2,000		2,031		
	145,292	2,000	0	2,031	0	0
企画・講座部会 （予算130,000円）	まちの先生講座（8年目）		まちの先生講座通知送付費4602円	まちの先生連絡会通知送付費3128円 まちの先生講座チラシ用カラーマルチペーパー6540円		Wi-fi 29,685円
	予算		4,602	9,668		29,685
	学びの仕組みづくり			まちの先生講座用ハガキ 1830		いるまなびとのWA!秋号郵送代 22684円
	予算			1,830		22,684
	他の課との連携推進（公民館、自治文化・商工・環境課など）		企画講座部会コピー代40円			
	予算		40			
	135,563	0	4,642	11,498	0	52,369
広報部会 （予算260,000円）	HPの充実					学びの場印刷代 128520円
	予算					128,520
	仲間を増やす					風車用紙　4320円
	予算					4,320
	236,825	0	0	0	0	132,840
フェスティバルP （予算130,000円）	実行委員会参画		実行委員会(5/23)	役員会(6/17) 事業委員会(6/25)	事業委員会(7/18) 実行委員会(7/23)	実行委員会(8/23) 広報委員会(8/20)
	予算					
	フェスティバル運営					
	予算					
	139,798	0	0	0	0	0
視察研修P （予算130,000円）						視察研修バス代・高速代 102200円
	予算					102,200
	102,200	0	0	0	0	102,200

9	10	11	12	1	2	3
定例会(9/17) 市民活動センター	定例会(10/15) 市民活動センター	定例会(11/19) 市民活動センター	定例会(12/17) 市民活動センター	定例会(1/21) 市民活動センター	定例会(2/18) 市民活動センター	定例会(3/17) 市民活動センター
事務用ラベルシール 6808円	事務用ラミネータフィルム 2483円			プリンター42290円	プリンター42290円 報告書用表紙13320円	台車等45216 クイックシェードテント 15180 ホチキス、パンチ等15964
6,808	2,483			42,290	13,320	76,360
6,808	2,483	0	0	42,290	13,320	76,360
まちの先生講座　まかない費 986円　+873円					まちの先生交流会通知送付費5712円 いるまなびと登録者送付用封筒6050円	まちの先生更新通知送付費5712円
1,859					11,762	5,712
まちの先生講座用フラットファイル　1166円 まちの先生講座用袋 2248円	まちの先生研修会欠席者通知送付費 3374円				プリンタ用インク9691円 まちの先生交流会延期通知送付費5292円	
3,414	3,374				14,983	
まちの先生講座通知送付費 14990円 まちの先生講座　講師用マニュアル送付費5040円	まちの先生講座　講師用マニュアル送付費 2960+2590+370円					
20,030	5,920					
25,303	9,294	0	0	0	26,745	5,712
		FMチャッピー広報 55000円			生涯学習通信印刷費4224円	広報用インク、ホチキス針6784円
		55,000			4,224	6,748
					生涯学習けいじばん修繕費38013円	
					38,013	
0	0	55,000	0	0	42,237	6,748
広報委員会(9/10) 総務委員会(9/13) 実行委員会(9/24)	総務委員会(10/11) 実行委員会(10/17) フェス広報用ケース880円 フェス用カラーペーパー13320円	実行委員会(11/14) フェス展示用消耗品	前日準備(11/30) フェスティバル(12/1) 実行委員会(12/19)			
	14,200	990				
フェスティバル横断幕用布プリ　1596円 フェスティバル横断幕用布 1660円	フェスティバル横断幕用墨汁4092円 ポスター・チラシ印刷費 117260円					
3,256	121,352					
3,256	135,552	990	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0

市民の会発足２５周年に向けて

1995 年(平成７年)５月、市民の生涯学習推進組織として発足した私たち「入間市生涯学習をすすめる市民の会」は 2020 年(令和２年)５月に発足満２５周年を迎えます。これを祝して、次年度は２５周年の記念事業を実施します。

具体的には、２５年間に及ぶ活動を可視化すると共に、様々な機会を利用して情報発信を行う予定です。これらを通じて市民の会の活動を理解する市民を増やし、併せて一緒に活動できる新たな会員の発掘を進めます。

むすび

本報告では、2020 年度(令和元年度)の各部会／プロジェクトの活動目標と事業内容をまとめました。本年度も引き続き、「いるくん、まなちゃん、びぃとさん」のキャラクターを活用して、生涯学習のキーワード「いるまなびと」を、広く市民に定着させる活動に力点を置きました。

今後も引き続き、「いるまなびと」を生涯学習のキーワードとして、市民や行政職員へのアピールを継続し、「だれもが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことを暮らしや地域に活かすことのできるまち」を目指した活動をしていく予定です。

2020年(令和２年)３月３１日現在

委　員

幸森　康夫　　指田　博行

佐藤　享　　関谷　敦子

土屋　修　　長崎　彩子

望月　雅枝　　山増　智子

渡部　直也

協力委員

今井 誠喜　岡野 こずえ　岡野 亘

栗原 正明　桑原 良博　小暮 欽作

須崎 隆司　人見 友章

問い合わせ先
入間市生涯学習をすすめる市民の会事務局
（入間市教育委員会　社会教育課）

〒　３５８－８５１１
入間市豊岡１－１６－１
℡　０４－２９６４－１１１１　内線４１２４・４１２５